



やっほー!

イラ!

Letter from Jordan No.34

2022-1 次隊 岡崎 友里



いのち ぎせいさい 命をいただく犠牲祭

ヨルダンでは、ラマダン明けの「イードアルフトル」に次ぐお祭り（イード）がありました。名前は、「イードアルアドハー（犠牲祭）」です。ラマダン明けから同僚たちに「もう一つお祭りがあるのよ。そのお祭りも（イスラム教徒の）私たちにとって大切だから、ぜひ見てみて。」と言われていました。今回、どんな様子だったか紹介します！



「イード アル アドハー」とは？

その昔、神が信仰心を試すため預言者アブラハムに対し、息子イスマイルを犠牲に捧げるように言います。アブラハムはしぶしぶ応じようとすると、神はその信仰心を称え、代わりに子羊（動物という説もあります。）を犠牲に捧げるよう告げたといわれています。その逸話にならって行われています。

お金に余裕のある人は、羊ややぎ、らくだなどを1頭購入し、そのお肉を恵まれない貧しい人や親族などに分け与えます。お肉を売って利益を出したり、たくさんのお肉を食べたりすることが目的ではなく、**恵まれない人々が幸せになり、そして、家族や親戚との絆が強くなるように行われる**そうです。そのため、動物たちが利益のために利用されないよう、屠殺する動物にも条件が定められ、購入したお肉を転売するようなことは禁止されています。



イードアルフトルと同様に、人々は新しい服を買って当日に向けて準備をしていました。ただ、今回はラマダンのような派手な装飾がされず、お店で家畜の形の雑貨を見る程度でした。

それまで広い空き地だった場所には、家畜を販売するための場所が特別に設置され、前日までに一足早く訪れて、予約していく人がいました。

「イード アル アドハー」っていつ？

イスラム暦でいう「ズル アル ヒジャ月」の10日目、ラマダン明け約70日後に行われます。ズル アル ヒジャ月はメッカ巡礼の月（No.13参考）です。この期間が「メッカの大巡礼（ハッジ）」と言われ、世界各地からサウジアラビアの聖地に200万人を超える人が集まると言われています。

このズル アル ヒジャ月の10日目が、今年で言うと6月28日になり、続く29日、30日、7月1日の4日間が祝日となりました。

ちなみに、イード前の10日間は特別な期間であり、人によっては、ラマダンと同様にイード前の期間に断食をする人もいました。体や心を強くし、信仰心を表すためのようです。



予約されたであろう羊の体には、数字や名前が書かれていました。

心なしに羊が覚悟を決めたような切なくも悲し気な様子に見えました…。





イードの初日は朝早く起き、新しい服を着て、集団礼拝に行きます。お祈りに使う絨毯を手にして歩いていました。



集団礼拝が終わった7時ごろ、人々は羊ややぎを買いに車でやってきます。ほとんどが家族連れで、会場は大混雑。



こちらのおじさんは羊を3頭購入し、その場で様子を眺めながら、一緒に来ていたお孫さんたちに説明していました。



購入する人が増えるにつれて、別の場所でも作業が行われました。皮が屋根の部分にかけられていたのは驚きました…。



あっという間にお肉が切られていき、購入した人は、持参した鍋や袋に入れてもらってその場を去って行きました。



決まった手順があり、首を切って血を出した後、皮をはいていきます。鮮度は大切なため、手際よく進めていました。

家族連れも多く、中には、小学校低学年の子どももいました。私が見かけた子どもたちは、生々しい屠殺の様子にも臆することなく眺めていました。ほんの数秒前まで鳴いていた、歩いていた動物たちの命をどうやっていただいているのか、ヨルダンでは、小さいうちから目の当たりにするのだとわかりました。本来の目的ではないのかもしれませんが、「食べる」という行為の原点に戻って、命と向き合い、命の大切さについて小さいころから考えることができる機会だと感じました。

ちなみに、イスラム暦でいうこのズル アル ヒッジヤ月は、一年の最後の月です。つまり、今はイスラム暦で言う年末です。ということは…、イスラム暦の新年がもうすぐです。

Let's talk in Arabic ♪

今回は、犠牲祭にちなんで、動物たちのアラビア語を学びましょう。



らくだ

جمل

読み方：ジャマル



やぎ

معزة

マアザ



ひつじ

خروف

ハルーフ



うし

بقرة

バカラ



とり

دجاج

ダジャージュ



ぶた

خنزير

ハンジール

イスラム教徒の人たちは豚肉を食べません。その理由は、「不浄の動物」とされ、コーランにも禁止と記載されているからです。そのため、日本では豚肉を食べることを伝え、よく驚かれます。ヨルダンの犠牲祭では、家畜の動物たちの中でも羊が多かったです。現地の人は「羊が一番おいしい!」と話していました。

どの動物であっても感謝しておいしくいただくことが大切だと改めて思いました。



では、また次回! مع السلامة